

VOL.
60

シイビブリア

夏に読みたい！おススメの本紹介

中野長者伝説 開拓者、鈴木九郎と郷土の記憶

中野区立上高田図書館

子どもをあと押し！地域のちから



水木しげる / 著、
角川書店、2009年、
所蔵：中央

・屍のような人生

第1章から4章まで、怖い噂話や不思議な場所にまつわる逸話など、異なる種類の怪談が稲川淳二の独特な語り口で書かれている。読んでいて背筋がゾクゾクする話がほとんどという印象だが、結末が切なくて寂しい幽霊のおばあさんの話などもあり、バラエティー豊かな一冊だ。

現在も年間50回ほど公演を開催し、今までに500話以上もの怪談を語っている怪談家、稲川淳二。今までに語った怪談から、不朽の名作といわれる40話をピックアップしたのが本書だ。



稲川淳二 / 著、
講談社、2021年、
所蔵：江古田

・稲川怪談 昭和・平成傑作選



妖怪漫画などで有名な水木しげる。その誕生から88年を記念して出版された一冊で、彼の生涯について紹介している。

水木は、1922（大正11）年3月8日に大阪で生まれ、生後まもなく鳥取県の境港へ移り住んだ。お手伝いで家に入りする人から、昔話や伝説を聞かせてもらうことを好み、檀家だった正福寺へ行く際は、何時間も飽きずに地獄極楽図に見入っていたという。この異界への興味が、後の作品の制作に繋がっていたのかもしれない。

また、作中では戦時下についても振り返っている。鳥取連隊へ入営直後は、上官からビンタを浴びる毎日だったが、根がのんびり屋だった水木は、演習さえこなせば食事がたらくく食べられるため、割とほがらかに過ごしていたらしい。このような彼の人柄も分かるエピソードのほか、貴重な当時の写真や妖怪画・年代別の主作品なども収録している。現代のあわただしい世の中だからこそ、激動の時代の中であっても、自分のペースを崩さなかった水木の生き方から、学べることの多いおススメの一冊だ。

